

年会費の値上げについて（お願いとお知らせ）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会長 沖川 悦三

このたび、協会の健全な財政と継続的な運営並びに事業の確保充実のために 2017 年度第 6 回理事会（2018 年 6 月 17 日開催）において、年会費の改定（会費の値上げ）を決議し、加えて 2018 年度定時社員総会（2018 年 8 月 30 日開催）にて承認されました。

つきましては、正会員（個人・法人）の年会費を現行の 8,000 円から **10,000 円**とさせていただきますことをご連絡いたします。

なお、賛助会員と学生会員及び入会金は現行据置といたします。これらの会費は 2019 年度分からとし、今年度末の会費請求から適用させていただきます。

どうぞ、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

（補足資料）

値上げにあたり、皆様のご理解をいただきたく趣旨の説明をさせていただきます。

協会はこの数年、単年度赤字の財政で運営にあたってきました（2012 年度に赤字決算に転じてから 6 年で平均 1,087,186 円の赤字）。

この状況を改善するために、協会事業すべての見直しと諸経費節減（Web 会議導入などによる協会誌編集委員会経費の削減、支部対応への移行などによる企画推進経費、理事活動費等の削減など）に努めてきた一方、講習会等の諸収入の拡大化、会費の収納率向上の対策にも努め一定の成果を上げ始めているところもありますが、収入はなお財政需要を満たすまでに至っておりません。

これに加えて、国際連携の拡充が必要な情勢や JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）など災害対策活動の充実など、既存事業の拡大と新規事業の創出の必要性およびこれに伴う経費の増大、また、消費税の増税、輸送費の値上げ等の経費増の外的要因の影響も免れない状況です。

このような状況を解決するためには、財源に見合った事業活動（事業の縮小）とするか、会費の値上げをするかのどちらかの選択が考えられ、これまでに十分かつ慎重な議論を重ねて参りました。その結果、基本的に計画にあげた事業を縮小する方向ではなく、経費節減策を継続しながら今後の事業活動を通じた当法人の目的を推進、達成させることが協会として会員のみならず、そして社会への責任と考え、今回の判断となりました。

【値上げ幅について】

現行事業規模の継続を前提に、経年的な赤字の解消を考え、先に挙げた約 100 万円（6 年で平均 1,087,186 円）の赤字額をその間の平均会員数（832 人）として試算すると、1 人当たり 1,300 円（1,000,000 円 ÷ 832 人 ≒ 1,307 円）の値上げが必要となります。

しかし、この額では赤字解消に必要な額の補填に留まるだけであり、先にも挙げた国際連携の拡充や災害対策活動の充実などの協会に求められている公共性や、突然の費用増等に対応しうる組織の安定運営に必要な基礎的な資産までには繋がりません。今後の更なる協会事業の推進をご考慮いただき、2,000 円という値上げ額とすることをご理解いただきたいと思います。